立教大學新聞
旬刊

發行日 五日、十五日、二十五日
本紙定價 一部金五錢 一年金壹圓五拾錢
廣告料 五號活字十五字詰一行金五拾錢 場所指定貳割増
發行兼編輯印刷人 玉井俊夫
發行所 東京市外池袋立教大學構内 立教大學新聞學會 電話小石川四〇九番 振替東京七〇八五二番

學長問題具體化す

學長承認期成同盟の結果に檄文を發表すると

既報所報の如く、大學革正の旗印の下に、最近經濟科三年を中心として、起りつゝあつた學長正式承認運動はその後日を經るに從つて漸々濃厚を加へ、漸次白熱化して來た。近く之が解決を告げざるべからざる形勢である。

新學期を迎へて急激に擡頭せる杉浦學長正式推戴運動は、その中心勢力をなす經濟科三年の努力空しからず、漸く大學の内外一般の注目を惹くに到り、益々白熱化して來たが、之に力を得た同科三年一同は飽くまで初期の目的の貫徹に向つて一意邁進するため、**更に結束を新にして學長承認期成同盟を結び、尚一段の猛運動を開始せんとしてゐる。**果して正式承認を得るかどうか、之がためには當の問題の核心たる杉浦氏と近く同盟員と正式に會見し腹藏なき意見の交換をなすものと見られてゐるが、或はこの會見の結果如何によつては、更に數段の運動も必要ともなるべく從つて、その曉にはこの解決は幾分長びくものと思はれる筋合が多い。

何れにしても大學の總帥たるべき學長が、事務取扱の名稱の下に卑しめられることは大學そのものの價値を低下せしむる所以でもあり且又内的にも、學長の威信に關するものと一般から考へられてゐる所であるから、或は合理的にこの運動を機として案外容易にこの問題の解決はつくものであるかも知れない。併しとにかく現杉浦學長事務取扱の經歷地位に對し、ミッションが、その不可解なる制度を固執する限りは短時日の間には正式學長は實現し得ないものと見るのが正當ではあるまいか。若し然りとすれば、凡てが大學革正に歩を醸してゐるものなるを以て、この問題は益々深刻化されるべく、第二の早大事件、洋大事件とならないとは保證し得ないのである。

近來大阪校友會の二回に亘る正式推戴の決議等この問題に就いては益々濃厚を加へつゝある折から今回の經三中心による正式推戴運動は、頗る力あるものらしく、**徹底的運動を期すため該期成同盟にては近日中に檄文を發表し**大々的に具體的運動に取かゝると云ふことである。かくして該運動は第二段に入つたものと思はれる。

◇……秋漸く深し……◇

劇と音樂に『無産者の夕』

大學生も出演する

無産階級唯一の言論機關を以て任じてゐる無産者新聞は本月下旬決定的宣傳週間を行ふ由であるが同十月二日三日兩日都下の新進音樂家並に劇藝術家の好意的演出に依り劇と音樂をもつて『無産者の夕』を芝公園協調會館に催す事となつたが當日の演出者中には本學文學部學生も加入してゐる、尚上演劇は久板榮二郎氏作の『犧牲者』及『カムチヤツカ行』と漫畫劇の三である。

立教劇研究會

新生を見る

前立教劇研究會解散の後、吾立教は何等劇界に對する權威なく、各大學の研究會と併立するを得なかつたが、本大學教授岡倉由三郎氏の好意により豫科文科一年の諸君十數名集まり、小さいながらも前途に大なる希望を抱き、劇界に光明を見出さうと各自の本分を盡してゐる。將來彼等は偉大な又權威ある立教大學劇研究會を建設することを得るであらう

京大事件の眞相發表せらる

豫審終了して

起訴四十二名に及ぶ

昨年十二月一日京都帝大社會科學研究會内部に突如暴露された過激文書にからまる治安維持法、出版法違反事件が**導火線**となつて全國の最高學府には學園創始以來曾てなき學生の大檢擧となり司法當局の全國的大活動は昨年十二月より本年四月まで五ヶ月間に亘つて行はれた、爾來『二十年後共産政體實現期成同盟事件』に關聯せる全國大學、高等專門學校の教授學生の取調べはこの程豫審終結し學士四名學生三十六名其他二名の四十二名を起訴中卅七名は保釋及び責付出獄を許した、なほ京大の河上博士以下關係學校の八教授も嚴重なる家宅搜索を受け書類等を押收された事件の内容の

主要點は之等學生が社會科學研究に名をかつて結社し大正十四年七月十五日、十六日以降東京又は京都に於て頻りと會合し或は勞働爭議小作爭議水平運動に巧に變裝、僞名して活動する形跡につき注意中、同年九月二十三日京都帝國大學學生集會所で全國學生聯合社會科學研究大會開催を機として集合し、その翌二十四日京都市上京區北白川町なる京都帝大社會科學研究會事務所でいはゆる「夏の會議」と稱する會議を開き私有財產制度否認マルキシズム、レーニズム等の思想を根柢として

新社會の實現を理想とし無產勞働階級との連絡を始め不穩計畫を決議し、政體變革、國憲紊亂の文書を作つて謄寫版刷り四十部の秘密出版をなしスターリン著のレーニズムに關するあらゆる問題（國禁の書はほとんど全部）を謄寫版に譯し、ひそかに印刷して同志又は勞働團體に頒布し宣傳あるひは社會運動の煽動に供した事實判明其他男爵石田英一郎は不敬罪、經濟學士大鐘積は爆發物法違反にそれ〴〵抵觸併合罪に問はれた

◇◇◇＝京大事件批判＝◇◇◇

學生不穩文書事件に就いて

教授　根岸由太郎

『學問の獨立、大學の神聖、研究の自由』等の諸句は最近諸大學教授や生徒の間に盛んに行はるゝものであつて、皮相的に聞くと一寸面白い、如何にも立派に聞ゆる文字であるが、偖て是等の裏面に包擁せられて居る意味や又た其の論理的歸結になると國民的觀念と衝突したり國家の結構を危殆に陷れたりして甚だ穩かならない文字で其の表現する所は決して良好と云へない。文部大臣を、チレンマ二中擇一の地位に押込むるには便利な武器だが、僕は是等の美句と禍根とをバランスして學問に從事する人は大に警めなければならぬと思ふ。眞に國を念ふ人ならば、學者と稱する人々は我が四圍の狀態を考察して何かオリヂナルの利益ある思想を練り具體的に國家に貢獻するに足る仕事をしたいものである、原來日本は過渡時代にあり東西文化の集合地となりつゝあるのであるから止むを得ないのかも知れないが故に卑見を以てすれば滔々たる日本の所謂大學教授なるものは多くは外人の著書を見て之を日本語に譯して直ちに斬新なりと自負するものにして實に淺墓な次第である、經濟學でも法律でも科學でも殆んど知識の源を外人の著書に採らざるは少ないのである。所謂少壯教授と稱する博學なる人々が最近自己專門の學術に關し盛んに著書をなすが詮じ詰めて見ると殆んど外人著書の飜譯である是に隨する學生の多くも二三の外國語著述を讀み直ちに斬新思想の大家を氣取り、人を目して時代遲れなりステールなり、オールドなりと排斥す。其の結果は如何一知半解、國家の存在に合せざる社會主義となり、不穩文書の宣傳となり官憲を煩はす事となるは火を觀るよりも明かである。飜譯的教授でも思想家が勢力を得つゝある國民は禍なるかな余は先進國の學問を一概に排斥するものにあらず、啻だ獨逸にしても米國にしても佛國、伊太利、英國としても一種特獨の思想を產出するまでには之に相當する歷史を有す。我が國の如き何等の思想歷史を顧みず物の由來を考へず、唯だ進歩主義の外人學者を崇拜して其の極端なる主義の爲に盲目的に左右せらるゝは僕の大に反對しなければならぬ所である。僕は日本人だ、英人でも、米人でも、獨人でも、佛人でもない。從つて其の所說も必らず漠然たる外人著書に迷されない積りであるバクニンやマルクスやエンゲルスやレニンの名を聞いてトランスの狀態に入る滔々たる大學教授、學生諸君以て如何となす。

廿五日から施行の試驗日時間表

學部及豫科商科二年の第一學期度延期試驗及追試驗は過日左の通り發表された

商學科　第二學年

廿五日（土）	憲法	中村教授
廿七日（月）	民法	竹田教授
	英經	久保田教授
廿八日（火）	英語	峰尾教授
三十日（木）	經原（前期）	田邊教授
	銀行	吳教授

商學科　第三學年

廿五日（土）	憲法	中村教授
	保險	錦織教授
廿七日（月）	民法	細野竹田教授
	英經	久保田教授
廿八日（火）	英語	峰尾教授
	商實	ガンドレット教授
廿九日（水）	商品	坂口教授
三十日（木）	經原（前期）	田邊教授
	銀行	吳教授

經濟學科　第二學年

廿五日（土）	憲法	中村教授
	統計	錦織教授
廿七日（月）	英經	久保田教授
廿八日（火）	英語	峰尾教授
廿九日（水）	經史	田邊教授
	商品	坂口教授
三十日（木）	國際法	中村教授
	經原（前期）	田邊教授
	銀行	吳教授
十月一日（金）	英經	久保田教授
二日（土）	英語	武藤教授

經濟學科　第三學年

廿五日（土）	憲法	中村教授
	統計	錦織教授
廿七日（月）	民法	細野竹田教授
	英經	久保田教授
廿八日（火）	英語	峰尾教授
	經史	田邊教授
廿九日（水）	商品	坂口教授
	國際法	中村教授
三十日（木）	經原（前期）	田邊教授
	銀行	吳教授
十月一日（金）	英經	久保田教授
	工政	河西教授
同　二日	英語	武藤教授
	農政	河西教授

文學部　第二學年

廿五日（土）	英語	小林教授
	英語	峰尾教授
廿七日（月）	宗教史	小林教授
	哲學	菅教授
	英文學	岡倉教授
	歷史研究法	小林教授
	東洋史	白鳥教授
	東洋哲學史	山本教授
	英文學史	武藤教授

文學部　第三學年

廿五日（土）	英語	小林教授
	英語	峰尾教授
	英文學	岡倉教授
	言語學	金田一教授

豫科　商科二年

廿五日（土）	簿記	石谷教授
	哲學	菅教授
	教練	岡村教授
廿七日（月）	法制	中村教授
	英語	永野教授
	心理	辻教授
廿八日（火）	自然	曾彌教授
	佛語	後藤教授
	獨逸語	石川教授
廿九日（水）	數學	曾彌淺越教授
	修身	杉浦教授
	英語	根岸教授
三十日（木）	佛語	杉教授
	獨逸語	波崎教授
	歷史	齋藤教授
	漢文	本莊教授
十月一日（金）	經濟	竹村教授
	英語	前田教授
	英語	武藤教授

備考
第一時自前九、一〇—一〇、三〇
第二時自前一〇、四〇—一二、〇〇
第三時自後一、〇〇—二、三〇

今秋リーグの日割決定

今秋の成績は？

——期待せらるゝ野球部——

今秋のシーズンに必勝を期して汗と音とに依りて今夏原主將以下母校グランドに於て去月十七日以來猛練習を行ひつゝある野球部は

目捷にせまつた昨今守備攻擊兩方面に於て鐵桶の如く寸餘の隙も見出し得ず殊に今春あまり振はなかつた打擊に於て全員いゝあたりを見せ野田、片田、南條は相變らず長打を飛ばし

守備に於ても片田、野田の投球振りも物凄く森、鈴木何れも守備陣も固くなり今秋は今春以上の

好成績を收め得ることであらう、因に本學のリーグ日割及リーグ規程は左の如くである

九月廿四日立教對法政（一回）長崎
同　廿五日立教對法政（二回）戸塚
十月　二日立教對明治（一回）長崎
同　三日立教對明治（二回）駒澤
同　六日立教對帝國（一回）長崎
同　七日立教對帝國（二回）長崎
同　十六日立教對早大（一回）戸塚
同　十七日立教對早大（二回）戸塚
同二十三日立教對慶應（一回）長崎
同二十四日立教對慶應（二回）新田

規約

（一）順位は優勝率をもつて決定す同率の場合は勝點率を以て決定勝率共に同じ時は最後に臨一回試合を擧行して順位を決定す

一、決勝戰は第二回戰の翌日を原則とす

會則改正委員の觀る學友會の現狀（三）

改修は絶えず行はれねばならぬ

學生監　岩佐教授

何でも生命あるものは、其ものゝ自身の構造に於て、斷えず破壞があり建設があつて、其生命を繼續し、擴張發展して行くのである。學友會とても其例に漏れない筈である。

急進的の人は改革を叫び、漸進的の人は改修を唱へる。今學友會の改革案とか規則改正案とか論ぜらるゝのは別に本會が特殊の狀態にあるからと云ふ意味あいでも無からう。

◇……◇

學友會の規則に訂正を加へるときには、第一學友會の目的に就て考へる必要がある。學友會の目的を明確に頭の中に入れて置いてゝなければ、現則に改正を加ふる處に學友會本來の性質に矛盾した脱線的方面に導く恐れがある。

次に其目的を達成せしむる事業に就て考慮を要する。如何に華々しき事業でも本會の目的に大切でないものは力を用ふる必要があるまい。之に反して如何にじみなことでも本會の目的達成に重要なものは奬勵費を惜まぬがよい。

◇……◇

次に其事業を遂行する上に必要な組織を考へねばならぬ。部長制度委員制度などの討究には、之を實驗に徴し之を理想に照らして最善の方式を取らねばならぬ。

其故に、實際當業者の實驗に基く意見を聞くまで、少くとも私は何等具體的意見は立てられない。同時に第三者の批判を謹んで耳を傾くる積りである。

且つ根本的に學友會の性質を確定してからねば、目的事業組織何れに對しても批判のしやうがない。

◇……◇

學友會は單に學生の爲のものであるばかりでなく、學生自身のものであるならば、充分に自治的のものでなくてはならぬ。同時に學生のものならば、學校と獨立のものであつてはならぬ。何ぜならば學生は學校に必然的に繋屬して居るものであるからである。評言すれば學生は各一個の青年紳士であると同時に學校を離れては學生でなくなる。少くとも其學校の學生でなくなるからである。

學友會は學生の爲のもの、學生自身のもの、學校内の即廣き意味の學校組織の一部分として、充分の機能を發揮し得る、新しい規則が欲しい是れが秋の念願である。

私は現在、極度の内臟下垂症に罹つて居る。多くの醫師が、其々專門的に愼重に診察して吳れた。或醫師は外科的に内臟整形を爲さねば健康は回復しないと斷定した。但し他の醫師は之に反對して居る。

◇……◇

學友會が所謂内臟整形を外科的に施す必要あるや否やは、愼重の診察を要する。而して人々によつて意見を異ふするであらう。但し改修は斷えず行はなければならぬことは明白である。學友會が、學生の體育智育意育德育全體に亘りて、教室以外に、自由に自然に、貢獻すべく、充分に機能を發揮するやうに努力することは、學生自身の個人的人格の爲のみならず、學校としての綜合的人格の爲である。

私は斯かる考を持つてゐる。そうして、學友會規則改正の參考資料を、多くの人達より得たいと思つてゐる。

米山梅吉氏の美擧

三千圓を本學へ

去る七月令息死去に伴ひ其冥福を祈る爲

三井信託株式會社社長その他諸會社重役として東都實業界に鳴る米山梅吉氏の令息駿二君が本學哲學科に在學中、去る六日湘南の地に突如死去された事は當時都下諸新聞に報道された如くであるが、父君米山氏は、いたく之を悲しまれ、せめて若くして世を去つたこの薄幸の子の瞑目のためにもと、去る七月中旬、本學に對して金三千圓也の寄附を申し込まれた。本學にては、一方ならぬ**哀悼の**意を表すると共に、この[illegible]氏の寄附を早速有難く受領することとし、今回その發表を見た。當局にては未だその使途は何等具體化してゐないが、氏の意中を汲んで、何とかしてこの金圓を有効に使用するべく目下頻りと考究中である。因に米山氏は本學に對して頗る好意をよせられ、常に何かと盡力されてゐる好紳士である

MIMATSU'S MATCH BALL
SPORTING GOODS
1845 2071

ライオン齒磨

中野屋洋服店

散策の好季 喫茶の時季 が參りました
新裝の
ユリヤ喫茶店
で御滿足出來ませう

御食事 御宴會 には是非 當店へ
花月食堂
池袋立大通り

萬年筆用 記帳用
純質至廉
ロイドインキ
一号丸形 豆形 二号入 六号入 十二号入 廿四号入
東京神田 鈴木インキ店
各文具紙店ニアリ

ランケに至る史學の道程

小林孤村

科學的歷史の基礎は遠くフマニズムの往時に遡る、科學的歷史はフマニズムが齎らした人類同似の觀念に基づくもので、この觀念なくしては、科學的歷史は全然成立するを得ぬ、實にこの觀念はフマニズムが歷史に與へた偉大なる貢獻である然しフマニストの尙古思想は少からず歷史記述の進步を妨げたことをも考へねばならぬ、フマニストはローマ時代の史家を典型とし、切に之を模倣するに勉めた爲め、弟子は其師より大なるを得ずして、遙かに古典史家の記述に劣れる所を見る、この間に於て、只モンテスキューの自然的觀察とロレンチウスバラの批判的研究は多少注目を値する問題である

而して十六世紀に至り、デカートが出て懷疑哲學を唱ひ、カリレオにより自然科學的研究の起るや此等の影響は漸く史學に現れ、一方ライプニッツを先頭とせる自然科學的觀察が勃興し、他方マウリナー派の批判的研究が隆盛となり史料は精査され、歷史の基石が据付けられたが依然之を立派なる建築物たらしむべき大精神を欠いて居た、而してこの大精神を發見するに至つたのは啓蒙思想である

啓蒙なる詞の特有の意義は傳說的神學的觀察に代ふるに、新なる自然科學的文化を基礎として、一切の建設を試みることで、啓蒙主義の史學は、歷史を神學的學說より離れ、之を哲學的に觀察し、偶然的のものを一般的のものより區別せんとした所に價値を有するものである、猶彼等は從來の史家と異り、單に人類の一方面のみを考察する舊套を脫して人的群衆生活の總ての範圍を通觀し、之が批判と解剖とに力を用ふると共に、又歷史を國家より解放して、一般市民の現在に於ける政治問題を明白ならしむる計畫を立て、政治的歷史記述の一新生面を開拓して居り、之が後世史家に及ぼした影響は決して鮮少でない

實にボルテーアの如き、ヘルデルの如き、朧氣ながら國民精神、時代精神の傑を揭げ、人生の各種の現象、政治、宗教、財政、藝術等の體系的關係が說明され、又該博なる智識によつて史料の批判は完成された、然し啓蒙史家に特有なる世界的思想は人と人との區別をなさず、時代と場處とに基づく個性の相違を看過したるが爲に、其考察が完全に事實の眞想に到達する能はず、又彼等は堅く純理の執着したるが爲に、甚しく主觀的觀察に捕はれ、遂に歷史をして傾向的のものとなし、且つ批判さるべき史料の範圍を極限する弊に陷り而して餘りに重きを現代政治に置きたるが爲に、プラグマチスムの缺點を免るゝを得なかつた、然るに今歷史をしてかゝる弊害より脫せしめたものはフランス革命、實にこの革命及び其直接の結果は歷史の價値及び問題に對する見解を根本的に變化せしめたのである

フランス革命は何を歷史に教へたか、此革命は勿論ある政治原理を根抵とせる包括的なる革命手段によつて、長い時代の間に成立した一切の組織を破壞して、之に代ふるに新しいものを以てしたものである、然しこの革命の結果はフランスに於ては成功と見らるゝべきも、他國に於ては全然反對の狀態を齎らし、著しい反動の傾向を作つた、他國に於ては、革命の驚人により作られた政治組織は殆んど破毀され、啓蒙主義の理論家が非理性的として屬つた歷史的勢力、傳統的權威を基礎として構成した建物は彼等が理性的として誇つたものより遙かに堅牢であると考へらるゝに至つた、かゝる變化を經驗した諸國が、今歷史に對し、全然新しい評價をなすのは當然である、革命的國家の基礎が脆くも破毀したことよりして、一般世人は生命ある政治組織は全く理論的空想又は自覺的目的により構成され得るものに非ずして、寧ろ無自覺な歷史發展の中に成立するものが最も確實であるといふ學說を考ふるに至つた彼等は歷史中には人間の聰明より遙かに優れる神秘的智能の存在を考へた、かくて彼等は啓蒙史家の主張した如くに、個人が事件に干與する如きは非常な謬見で、個人は須らく歷史的となれる關係の中に忍耐すべきであるとの結論に到達した、かくしてローマンチック史家の傾向は啓蒙史家の主張した如き、現代政治家は須らく現在事件と類似せる一般歷史先例に教訓を求むべしとの世界的思想を排して、政治家は宜しく其國の歷史よりして、自己行動の極限を學ぶべく、之によつて彼は神の欲し賜ふ歷史的秩序を破毀することなくして那邊に至り得きかを知り、又其國の傳說によつて自己の過失を何れの點まで改善し得べきもの暗示を受くべきであるといふに至り、この當然の結果としてローマンチック史家は國民史のみが研究を値する對象であると主張するに至つた。

ローマンチック史家は非常に民族的で、民族精神を以て民族團體の歷史發展に勢力を及ぼすものと考へたが、彼等の啓蒙主義に對する反抗は彼等をして啓蒙主義の取つたリアリスチックの道を步むことを避けて、最も啓蒙主義者の排斥した幻想たり、迷信たる精神勢力に向ふた、彼等はかゝる民族精神は其生命を保有する限り、組織、法律、文學、技術を喚起するものであり、自己の力によつて或物を作ることは非生產的なりと觀し、從つて民族の宗教、法律、技術等を取扱ふに當り、必らず之を生ぜしめた一般狀態を顧みるに至り自然史學をして眼界を全體に向けしめ、かくて從來外的に並立せしものが內的に結合さるゝを見る

而して殊にドイツでは維新時代に於て言語と文化とは唯一の結合物であつたので、言語は或團體間に於て獨立の發展をなすといふ新しい見解が歷史に擴張され、之によつて歷史の謎が解決さると考へられたので、言語的歷史研究は澎然としてドイツに勃興するに至つた

之がランケに至る史學の途であるランケ其人に就てはまた改めて述ぶべき時があらう

北海道紀行（二）

大澤洋三

船が靜かになつた。函館灣へ入つたのである。波に映る函館の燈は實に美しい。函館の街は山の麓にＳ字形に海に面して横はつて居る。されば、海から見る夜の街は寶石をちりばめた帶の如く、山をめぐつて見えるのである。

山の上に月が登つて、港は青白い月光でつゝまれた。

ステーションの前で、二人の宿引が私を摑まえた。少し遲く私を摑まえた奴が『俺の方が先だ』と頑張つて他の男に食つてかゝり、たうとう私を連れて行つた。

この男は暗い小路へ入る處で、そこから出て來た一人の男に私を引き渡した、その男の法被にも提灯にも、私を連れて來た男とは別の宿屋の名前があつた。彼は明かに私を賣つたのである。

宿は磯臭い香のする、じめじめした小路にある、薄汚い家だ。私は一晚中そこで蚤に攻められた

翌朝九時、私は函館港から蒸汽に乘つた。空は好く晴れ、海は美しかつた。辨天臺のドックの岩に無數の河童が群て居た。辨天臺は函館戰爭の當時砲臺があつた所である。このあたりから夥しい海豚の群が船を追つて來た。函館の街が次第に遠ざかり、遙かにぼんやりとかすんで居た。白ちやけた岬が近づくと丘の上に赤い建物が見えて來た。

トラピストの修道院である。

船を降りて、路の兩側に澤山の烏賊の干してある。生臭い漁村を通り過ぎると、路は山にかゝつた。林を拔けると、草いきれのする廣い平原に出た。日は眞上から照りつけるので可成り暑い。修道院は前方の丘の上にあるのである。白い路が只一筋修道院まで續いて居る。

草原の中程迄來た時である。鐘の音が丘の上から響き渡つて來た。

私は思はず草叢に横はつて耳を澄ました。鐘の音は私の疲れた心の中を靜かに靜かに通り過ぎて行つた。

可成り急な坂を登りつゝあると、紫花陽の咲いて居る、修道院の庭へ出た。庭の片隅にある欅の木の下のベンチに三人の男が腰かけて居た。

『僕は立教大學の學生です。中を見せて下さいませんか』

妙な格好の外套を着て、木靴をはいた男が立ち上つて、私に好意のある眼差を向けた。

『あゝさうですか、二十分程お待ち下さい』

私は側のベンチに腰を下した。

そこからは、なだらかな平原を越えて、海が眼下に見えた。海は眞上から夏の日を受けて、燦く輝いて居た。

下の白い道を繪具箱を肩に掛けて、黑い洋傘をついた青年が汗を拭ひながら、登つて來た。

その時、修道院の中からは、壯嚴な祈りの聲が漏れて來たのである。

秋◇夜◇雜◇感

石井雄三

女性考

『人間の幸福と云ふものは、その愛兒の數に正比例するものですわ』と云ふ彼女は……産婆である。

◇

『女の數が、減少すればする程妾達は幸福になれますわ』と云ふ彼女は……豚の樣に肥大である。

◇

『男と云ふものは、皆薄情者ばかりですわ』と云ふ彼女は……第三期ヒステリーで苦んで居る。

◇

『男と云ふものは、皆危險性を帶びて居るものばかりですわ』と云ふ彼女は……彼女が產後の養生に實家へ歸つて居る間に、夫が女中に手をかけて居た

◇

『法律と云ふものは、本當に不人情に出來て居ますわ』と云ふ彼女は……二年後には、その愛兒を先夫へ返へさねばならぬ約束になつて居る。

◇

『妾の夫は、實際浮氣者ですわ』と云ふ彼女は……十二年の間に三人妾を取り換へた夫をもつて居る。

◇

『我等妾が競爭してもかないつこありませんわ、なにしろ相手は毎日〳〵遊んで御化粧ばかりして居るのですもの』と云ふ彼女は……元日早々から夫の妾宅へ談判に行つた。

◇

『妾達にも、選擧權を與へて下さい』と云ふ彼女は……獨身者である。

◇

『現代の女性は男性から獨立せねばゐけませぬ』と云ふ彼女は……好都合にも醜婦で男性が決して接近しやうとしない。

◇

實際なるかな彼女の名は……ラヂオ劇の女優ならむ。

時間空間

◇赤化學生の豫審調書發表さる。いろ〳〵の意味に於て感慨無量。

◇怪寫眞事件遂に政爭の具となる先に山本內閣は虎の門事件で崩壞し、今復若槻內閣怪寫眞事件で倒れんとす。

◇數萬の巨費を使つて鬼熊未だ捕はれず。斯くして警察權威日毎に失墜すか。

◇鬼熊退治に八州の豪傑集ひ寄るついでに大正御前試合を催しては如何。

◇教授、學生間に學名改稱の議起る。曰く、セントポール大學。

◇下り下關行特急顚覆す。多分魔の線路に於てならむ？

秋色

以上

××驛へ下車すると、見知らぬ女が自動電話に吸い付いて居た。

『ア、モシ〳〵××の一六三六番…………春の家さんで御座ゐますか、眞に恐れ入りますが榮子さんゐらして…………すみません…………

ア、、榮ちやんかへ、妾─わかつて、昨日は有難う、日曜日には屹度ゐらしてね─、エ、─此處？、××驛よ、妾─あなたの御家へ參る筈で三時半頃出掛けたのよ……處が途中で……引懸つちやつて……何んでもいゝ事よ、エ、そんな事話して居る間に一通話過ぎちやふわ……さう、そうなのよ、でね─阿母さんにわかるとゐけないでせう……エ、……で妾─あなたと一諸に松竹舘へでも行つた事にして置きたいの……わかつて、エ、─さうなの、なアに、もつとはつきりと話して頂戴よ、

阿母さんから─電話が？、何時頃？五時……であなたどんな御返事を……

…………

マア、妾─妾困つちやつたわね─、

…………』

× × ×

ブ──

ブ──

ヒュー

パッカードが薄ボンヤリ輝いて居る街燈の間から飛び出した。

下り、青森行急行。

第三の女

第一の女が申しました。家ぢや今度座蒲團を買ひました。

第二の女が申しました。家ぢや震災前まではいゝ座蒲團が隨分ドッサリありましたのですけれど。

第三の女が申しました。家ぢや麻の夏座蒲團が五枚ありますわ。

◇

第一の女が申しました。昨夜特急が顚覆したさうですよ。

第二の女が申しました。一二等特急ですつてね──。

第三の女が申しました。ですから汽車は三等に限りますよ。妾なんか里へ參ります時は何時も三等ときめて居ますわ。

23・9・1926

星。馬。──原始林のこと。其他

橋本從明

休み中一ヶ月餘り、十勝野の眞中で暮した。帶廣から西北七里ばかりの奥、堀立小屋に近い家──此の家は私のゐた部落へ何ヶ月かに一回やつて來る醫者の診療室に作られたものだが、こつちで言へばお話しにならない粗末なもので、それでも其の部落では上等なもので、それを私達が借りたのだ。相棒は農學校の生徒一人。其の家で石油ランプ一つ。鍋三つ。茶碗數個。小机。それ丈で簡易生活が始まつた。

農夫の眞似をしようと言ふのだつた。それに、金儲けと云ふ淺はかな智慧も混ざつてゐたが、それは、いざ農夫の眞似事をやつてみると駄目に近い事なので、思ひ諦めた。

農場迄は約一哩六分ばかりあつた。其の農場には、朝の五時半になると二百人に近い農夫が集まつた、其の群に私達が混ざつた。男よりも女が幾分多かつた樣だ、又女の方が澤山金をとつたらう。女の中にも仲々いゝのがゐた……。

それで、私達が小屋から農場迄通ふのにはどうしても三時半迄に起きなければ間に合はなかつた。それは毎日の事なので仲々苦しい事だつた。

『おい起きろ！時間だ』

『うーん』と寢返りを打ちながら

『雨でないか？』と相棒が云ふ。

『馬鹿云へ、天氣だ』

そんな問答が毎朝、二人の寢ぼけ聲で交された。それでも、朝は寢むたかつたが、冷たい井戸水で顏を洗ふと、素ばらしい朝の冷々した風が感じて爽かな氣分を起させたし、農場迄の路は、柏の原始林の中や、未だ開墾されたばかりのそばをまいた畑、桔梗、月見草、野百合を眺めながら步いて行くので、何とも云はれない莊嚴に近い感に打たれた。

こう云ふ中を步いてゐると、此れ等の自然に對して、自分がゐると云ふ事が、とても不自然に感じて仕方がなかつた。作業ズボンにゲートルを捲いて地下足袋を穿いて、頭には四十錢の麥藁帽被つてゐるのだが、どうしても闖入者と云ふ、よその感じであつた。勿論こう云ふ所では背廣や白靴は尙はかないだらうと思ふ。やつぱり、此所では、働いてゐる農夫達の樣な、何枚も繼ぎの當た股引、これは新らしい時は何であつたらうと思はせる上衣が相應しいと思ふ。

又この感じは、なまかぢりに讀んだ詩集の感化が、此れ等の自然に對する氣持を一番、ちぐ、はぐにしてゐるかも知れない。

それに付いて先づ第一に感じた事は星の事だ。

都會でみた星、柏の原始村から仰いだ星に就て其の感じが全然違つてゐた。

都會の騷音、充血した電燈の下から見る星は壯嚴で、神秘な宇宙に槍持つ騎士の樣な感を抱かせるが、無器量で、無言で、又一種ひわくれた樣な柏の梢から見る星は何となく親しみ易い。丁度氣難かしやの王樣に附添ふ道化師を想はしめた。

この頃は都會にゐる詩人が星を歌へなくなつたと言ふ事に──恐らくこれは嘘言であるとしても、最近の詩雜誌に星に對するものが見へないと云ふ事に、又歌つたとしても、此の原始林から見た星を歌はないと云ふ事は當然だらうと思ふ。

星のみに限らずそれと同樣の感情──私は原始林から星を歌ふと云ふ事は明日を歌ふものだと思ふ──を感じさせるものを歌へないと云ふことは、とは當然だし、歌へたらとんちんかんの事だらう。

又此の歸鄕で星を歌ふ詩人がゐたらそれは當然であるが、都會の詩人はそれを過去として謳るべき詩とるだらう。

都會は切迫した戰場だ。そして星は唯それに悔然としてゐる。斧鉞を入れない自然に於ては、星は明日を期待してゐる母の目だ。私はそう感じる、そしてどちらも、完全な調和に缺けてゐる樣に思ふ。

一方は少し進化してもよいだらうし。又他方は少し退化──進化に對して──してもよいだらうと思ふが……。

現に一方は進化しつゝあるが、それが星のある宇宙と調和─途方もない大きい言葉だが─した所で止めにしたらよいんだが……。

石井さんが注文の百行は突破したのでこれで止める。もう少し書きたい樣な氣がするけれど、此の次にでも書かしてくれたら幸です。

原稿募集

△研究論文（百行內外）

△文藝

研究物、詩、短歌

（百行內外、但し詩は四十行、短歌は十首以內）

◎以上十五字詰の事

△締切日

毎月十日、廿日、卅日

立教大學新聞學會

季節を迎ふるにあたりて

ラグビー蹴球部　新井直治

淋漓たる汗と苦鬪とに彩られたる夏季合宿練習も部員の共同一致の精神と秩序ある組織とによつて十五日間を大泉學園都市グランドに恙なく終了致しました、校友各方面からの激勵を受けまして本年はより以上に好成績に終つた事を諸兄に深く感謝致します集まる部員廿有五名中學校の選手數名を加へて三十名の立教健兒が勢と希望とに滿ちた心と體を今や正に來らんとする季節に向つて意氣と努力とによつてスポーツマンシップ或は技術を練磨したのでありました

愈々第二學期も初まりあます處一ヶ月によつて我等ラガーの季節は來らんとして居ります、今季節の蹴球界を見るに關東にあつては重鎭慶應を初めとして早大明大立教のビッグハイブの他に商大法政一高農大高師等によつてリーグ戰を行ふ事になつて居ります

段々とこのラグビー蹴球が總ての方面より見て多大なる好果ある事を認められ今日に於ては冬期季節は全くラガーの戰鬪によつて飾られるのであります。

加ふるに本年は關西の京大同志社三高の諸豪の東征と相まつて關東ラグビー界は益々多忙になつて參りました。

我立教蹴球部はこの多忙なるべき本季節に備えんためにこの炎天下に每日二時半から校庭に於て最大のベストを盡してティームの充實をはかつて居ります。

そうして季節に入つたならばスポーツマンシップの發露する處立教健兒の榮ある魂を勇敢に。校友諸兄の御期待にそえんと心がけて居ります。

本季節のスケヂュールを發表しますのに。

十月十四日	對水戶高校	遠征
同　廿三日	對慶應	新田球場
同　廿八日	對農大	場所未定
十一月四日	對早大	本校庭
同　十日	對帝大	同
同　十六日	對法政	場所未定
同　廿五日	對商大	本校庭
十二月二日	對明大	同
同　七日	對高師	場所未定
同　十日	對浦和高校	遠征
同　十五日	對一高	本校庭
同　中旬	橫濱外人團へ遠征	

冬季休暇對關西軍第三學期終了迄、セントポール倶樂部編成對倶樂部

大體の豫定は左記の如く編成されました

尙一層努力して勝利の榮冠を我立教メンの頭上に飾りたいと決心して居ります

何卒グランドにある母校校友諸兄の御熱烈なる御援を希望致します。

九月十六日記

新刊紹介

◇解放（十月號）─農民運動號

內容目次左の如し

七大論策

◇我國農民運動の二潮流　八木澤善次

◇帝國主義支配下の土地制度飛躍過程　靑木惠一

◇農民自治運動の創唱　中西伊之助

◇小農問題　栗原藤七郎

◇解放戰に於ける農民組合の地位　難波英夫

◇日本農民組合と全日本農民組合同盟　浦山良晴

◇當來文明の問題と土の藝術　犬田卯

特別記錄

▲木崎村の教育前戰　岩崎正三郎

▲農民生活の記錄　澁谷定輔

時評

◇農村問題　藤森成吉

◇無產農民學校問題　布施辰治

◇政友鬪爭の右派と左派　佐藤謙郎

◇農勞黨生取り法　下中彌三郎

特輯創作

■山の芋　加藤武雄

■渠上の足　若杉鳥子

■村の異端者　入交總一郎

■闇の音　佐々木俊郎

■小作爭議（戲曲）　伊藤文心

解放團體現勢

◇日本農民組合　細迫兼光

◇中部農民組合　中澤辨次郎

◇農民自治會　竹內國衞

◇日本小作人總同盟の現狀　須藤三郎平

◎定價（五十錢）解放社發行

◆藝術戰線（尾瀨敬止譯）

本書はウラヂーミル、リーヂンの編輯にかゝる『文學のロシヤ』を邦譯したものであつて、勞農ロシヤ文壇に活躍してゐる小說家の自傳及びその代表的作品を一つづゝ載せてある、即ち一目して赤いロシヤの文壇を知る事が出來る。セルゲイ、フタンチエフの小說『反逆』ミハイル、ゾシチエンコの小說『貴婦人』アナトリー、ルナチャルスキーの戲曲『天國のイソン』ウラヂーミル、マヤコーウスキーの詩『勞働詩人』ボリース、ピリニヤークの小說『イワン、ダ、マリヤ』リーヂヤ、セイフーリナ女史の小說『法の破壞者』等は就中佳作である。尙附として革命文壇の先驅者をもつて任じたことのある『しつの宣言』を載せてある

定價壹圓八拾錢、發行所東京日本橋區吳服町一、事業之日本社

高級ノートハイーグルニ限ル

Trade mark "EAGLE" Note Book is the best obtainable in Japan. always the finest in quality, Look for this mark when you need them.

（イーグルの商標に御注意下さい）

合衣をお作りになるんでしたら…………

確實をモツトーとする手前共を利用下さい。

【立教大學指定御用】

小林洋服店

撞球は是非！

池袋亭

立教大學通り

靴の──修繕は！

立大構內

井村靴店

文房具

ノート　原稿用紙　紙　インク　教科書

山崎賣店

ニコニコと池袋にお目見えした

御婚禮　御料理　仕出し　佛祝儀

ニコニコ亭

齋藤榮助

（池袋常盤通り九〇七）

學生さんの旅行にお召しになつたら

全く中秋を飾ること受合な弊店の合衣

日の出屋洋服店

目白女子大學隣

ライトインキ

降るは降るは萬年筆の雨が降る

宮內省御用達

チヤムビオンインキ製造元

篠崎インキ製造株式會社

東京・大阪・長岡

洋食　和食　喫茶

カフエー亭樂

サロメチール

運動、競技、旅行、登山による筋痛、疲勞、捻挫等に……

溫浴後本劑を塗擦せしめ置くときは翌朝までにすべての筋肉及關節の緊張消失するを見る

二十五瓦……一圓
七十五瓦……二圓五十錢

各地藥店にあり

發賣元

總代理店　田邊元三郎商店　東京市日本橋區本町

田邊五兵衞商店　大阪市東區道修町

S58
SALOMETHYL
TANABE & CO. Ltd
TANABE ★ SALOMETHYL